



第197回臨時国会が10月24日に招集された。所信表明演説で安倍首相は、いくつ

かの視点で今後の日本の進路を決定づける大きな方向性に関して言及した。

一つは、「戦後日本外交の総決算」として朝鮮半島の完全な非核化を目指すとした事である。その中で米朝首脳

会談に触れ、「次は、私自身が金正恩委員長と向き合わなければならない」と語った。5月にトランプ大統領が米朝首脳会談を突然中止すると発表した時に、賛意を表したのは全世界で安倍首相ただ一人ではなかったか。トランプ大統領が米朝首脳会談を予定通り行うと発表し、振り回された格好となったが、納得のいく説明を安倍首相は一切語っていない。変節の一部始終を明らかにするなど、恥ずかしくない外交をするべきではないだろうか！

二つには、「強固な日米同盟」として、沖縄の基地負担軽減や「日米物品貿易協定(TAG)」について触れている。民意が示された沖縄県知事選挙後も県民の声を聞く気も無い政権が、沖縄の基地負担軽減を述べること自体矛盾ではない。また、「環太平洋経済連携協定(TPP)」への参加を見送った米国は、日本に対して自動車関税の引き上げをちらつかせながら、安倍首相が行わないと明言した「自由貿易協定(FTA)」の締結を迫ってきた。結果的に、日本は米国との二国間においてTAGの締結協定を新たに開始することに合意した。

今回の協定に関してトランプ大統領は、「米国はこれまで以上に悪くなるような方向で、米国にとって良くなる一方だ」と語っている。二国間協定という性質から言えば、米国の良くなるのであれば日本は悪くなるということになる。そして、その利益の損失は農作物の輸入関税の引き下げなどにより、食の安全への影響として具現化されることが心配されている。

安倍政権のアメリカ追従を許さず 明るい未来を労働者・市民の手で切り拓こう

三つには、「改憲」への意欲を改めて指し示した事だ。まさに憲法99条で「天皇又は摂政及び国務大臣、国会議員、裁判官その他公務員は、この憲法を尊重し擁護する義務を負ふ」と明記されていることに真っ向から違反するものであり、安倍首相自ら憲法違反を行っているというのである。

他にも、強靱な故郷づくり、地方創生、一億総活躍社会を創るなど言われているが、これまでの言質を見る限り、私たち市民・労働者のことなど微塵も考えていないことが見て取れる。その典型の一つが外国人労働者の実態である。外国人の技能実習制度は、途上国の外国人が日本の技術を習得し、母国の経済発展に役立てる名目で1993年に始まった。しかし、実習生に対して、違法な長時間労働、賃金未払い、単純労働の強制が発生している。2017年の外国人労働者数は、過去最多の約127万8000人であり、厳しい待遇に耐えかねて失踪する実習生が7000人を超えている。技能実習制度が人手不足対策に利用され、多くの人権侵害につながっている現状だ。政府が国会での成立を目指す「入管難民法改正案」は、その場しのぎの対策であり、根本的解決にはならない。

私たちJR東労組は、労働組合として一時的・対症的ではなく根本的な解決を目指して、議論や実践をこれまで積み上げ、職場で発生する諸課題に向き合ってきた。安全問題においても同じことであり、責任追及では何の解決にもならず、原因究明することで直接的な原因と背後要因を分析し、再発防止に向けて議論を深め、職場の安全風土を築き上げてきた。職場で働く私たち、そして社会の中で生きていく一人の人間として、今こそ状況を眺め洞察力や核心に迫る力を養い、鋭敏な労働者の感性を発揮する時だ。働きやすい職場、人間として生きられる社会を創り出すために、心ある多くの方たちと連携して、労働組合としてできることをやりきり、全世界の人民が幸せに暮らしていける地球を未来に残す。

美世志会 上原代表あいさつ(要旨)

お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。

2002年11月1日から16年が経過しました。長きにわたる反弾圧のたたかいを含め、JR東労組の連帯に心より御礼申し上げます。

本来ならば、例年通り集会を開催する予定でしたが、皆様もマスクミ等でご存じのように、18春闘をめぐる本部方針の過ちによる大量脱退を生み出してしまい、集会開催を見送る判断をし、意見交換会の開催となりました。皆様にはご心配をおかけしたことにお詫び申し上げます。

2002年の逮捕時に、警視庁公安、東京地検の取り調べの際に「JR東労組は内から壊せないから外から権力が介入するんだ」「平和運動をするのは生意気だ」と言われ、JR総連・JR東労組は、全組合員で反弾圧

のたたかいを担い、私たち美世志会と家族はもとより、JR総連・JR東労組の平和運動や労働組合としてのたたかいを組織強化を基礎に守ってきました。

しかし、今回の一連の事象の中において、「美世志会はグニャグニャになった」などこれまで共にたたかってきた仲間とは思えない発言や、自分の正当性をアピールしている姿は、悲しいだけではなく怒りを覚えます。

これらの組織内の状況を解決できないままでは、JR東労組を内側から壊してしまうという否定的な事態になってしまいます。本日お集まりいただいたみなさんに支えられてきた美世志会とJR東労組は、今後も連帯して、平和、反弾圧のたたかいをつくっていきます。JR東労組の危機的状況にご支援とアドバイスをいただき、労働者のためたたかってきた16年間も含めて、これからもご支援賜りますようお願いいたします。

美世志会と共に平和な社会の実現にむけ

JR東労組運動を強化するために！ 11・1 意見交換会

来賓 (敬称略)	佐藤 優	作家
JR総連 執行委員長 榎本 一夫	植草 一秀	スリーネーションズリサーチ(株)代表取締役
書記長 柳 明則	木村 三浩	一水会代表
	古川 龍樹	福岡事件再審キャンペーン事務局
	篠田 博之	月刊「創」編集長
	斉藤 貴男	ジャーナリスト
	石塚 聡	月刊「マスコミ市民」発行人
	国広 健一	劇団文化座
	原田 明子	劇団文化座
	船田 功	元支援する会
	松崎 都	元支援する会
	海勢頭 豊	元支援する会
	橋本 勝	元支援する会
	常石 敬一	元支援する会



「力合わせ夢語る8・8大集会」から30年

「2018政策フォーラム」発表機関決定!

11月11日〜12日に箱根湯本ホテルで開催される『2018政策フォーラム』の成功に向けて、横浜地本は準備委員会を結成して議論を重ね、準備を進めています。各地本や部会の政策フォーラムも終了し、発表機関が決定しました。今回は、9地本と部会の代表機関、国際鉄道安全会議で提言発表を行った左沢線営業所分会の報告と併せて11機関となります。

発表テーマおよび機関

- 盛岡地本 (青森駅連合分会・大湊駅連合分会) 担務・作業ダイヤを見直し、営業職場の適正な要員配置を考える
- 秋田地本 (運車部会) ワンマン列車のサービス向上を目指して
- 仙田地本 (郡山支部) より良い地域ローカル線を残すために
- 水戸地本 (JRバス土浦分会) 常磐道多重追突事故における事故原因究明委員会について
- 千葉地本 (工務部会・津田沼支部合同) 「社員満足度No.1」の鉄道会社を目指して～手当の新設・改善による労働条件向上～
- 東京地本 (バスセンター分会) 東京駅バス乗り場路面陥没問題
- 横浜地本 (鎌倉車両センター分会・国府津車両センター分会合同) 検修職場の将来を見据えた人材育成「最後の砦は、人である」
- 八王子地本 (営業プロジェクト) 変革2027に挑む
- 大宮地本 (大宮車掌区分会) 恵比寿駅白杖挟まり発生!! 原因究明委員会報告
- 部会 (営業部会輸送分科会) ホーム上の安全は俺たちが守る～part3
- 国際鉄道安全会議での提言報告 (仙田地本 左沢線営業所分会) 本人の証言をもとに原因究明し、鉄道員としてあるべき姿を、ヒューマンファクターの観点から追求し対策を提起する